

相模原市では市民協働によるモニタリング調査を行っています

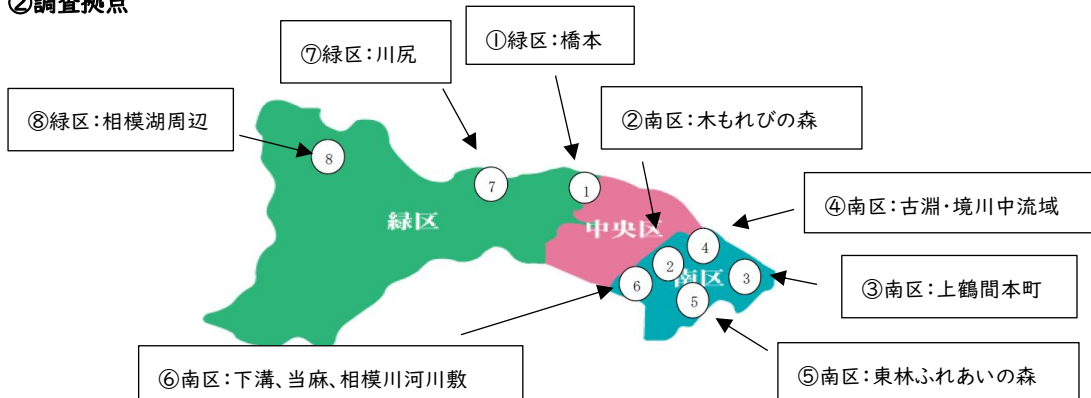
①モニタリング調査について

・相模原市では2018年から、市民協働により市内に生息・生育している生物の調査を行っています。

・調査にあたっては、教育機関や自然環境団体、市民ボランティアなど、現在まで多くの方々にご協力をいただいています。

ここでは、モニタリング調査の対象種と結果の一部を紹介します。※一部の種については、希少性を考慮し調査地等を非公開としています。

②調査拠点



③モニタリング調査対象種(一例)

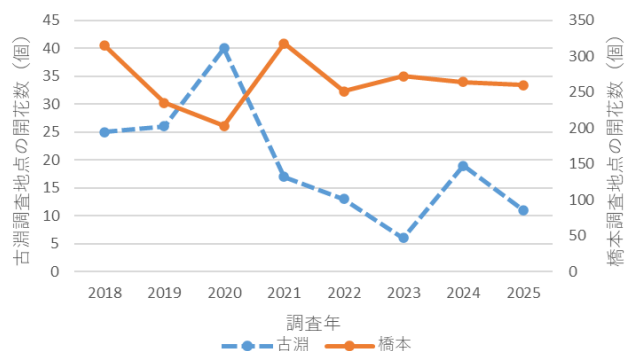
・アマナ(ユリ科) 神奈川県レッドリスト: 準絶滅危惧

明るい林内に生える多年草の植物です。橋本や木もれびの森、東林ふれあいの森などで生育が確認されています。



【写真:アマナ(左:開花)撮影:特定非営利活動法人相模原こもれび(右:発芽)撮影:東林ふれあいの森を愛する会】

2 調査地点のアマナの開花数の推移



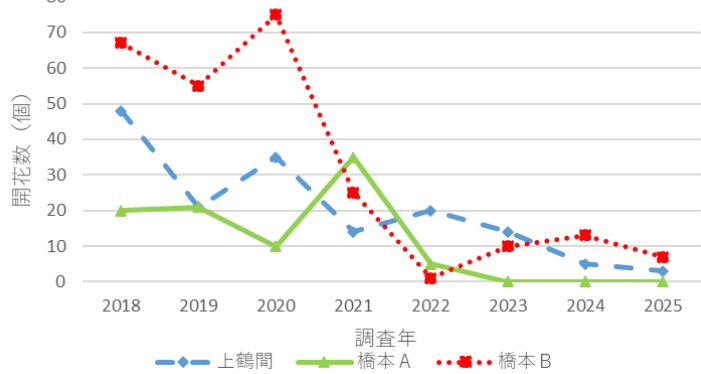
・ヒメニラ(ヒガンバナ科) 神奈川県レッドリスト: 絶滅危惧 I B 類

神奈川県では相模原市内にのみ分布が確認されている多年草の植物です。モニタリング調査でも、増減はあるものの、生育が確認されており、群落は移動していることが確認されています。



【写真:ヒメニラ 撮影:特定非営利活動法人境川の斜面緑地を守る会】

3 調査地点のヒメニラの開花数の推移

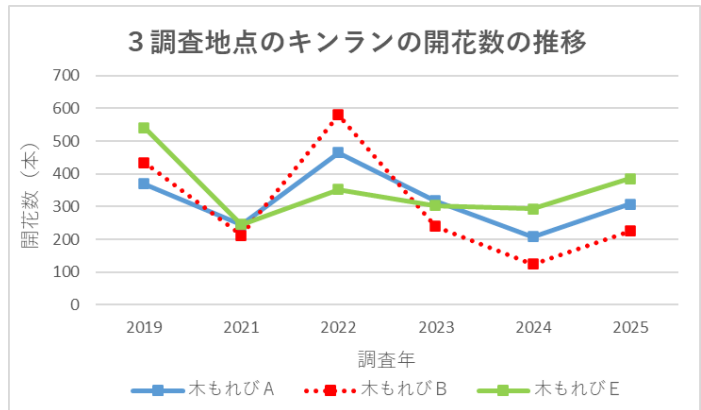


③モニタリング調査対象種(一例)

・キンラン(ラン科) 神奈川県レッドリスト:準絶滅危惧
東林ふれあいの森や木もれびの森などで増減があるものの生育が確認されています。



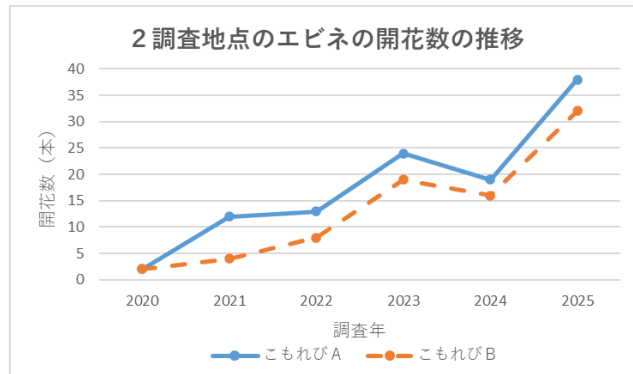
【写真:キンラン(左:開花 右:発芽) 撮影:東林ふれあいの森を愛する会】



・エビネ(ラン科) 神奈川県レッドリスト:準絶滅危惧
明るい樹林の林床に生える多年草の植物です。維持管理された林が生育地として重要です。市内でも生育が確認されています。



【写真:エビネ 撮影:特定非営利活動法人相模原こもれび】



④その他のモニタリング調査種の紹介



【写真:ハグロトンボ 撮影:特定非営利活動法人境川の斜面緑地を守る会】

・ハグロトンボ (カワトンボ科)
流水周辺などでみられる在来のトンボです。
モニタリング調査でも継続的に確認がされています。

・イワツバメ (ツバメ科)
近年減少傾向にある。天敵であるカラスの影響が考えられる。



【写真:イソヒヨドリ 撮影:玉川大学名誉教授 田淵氏】

・イソヒヨドリ (ヒタキ科)
緑区地区の市街地の屋根裏、建造物で1年を通して生息し、繁殖が確認されるようになった。河沿いの建造物や国道沿いの建造物を中心に見られ、近年は増加傾向にある



【写真:オケラ 撮影:木もれびの森の花と木々を守る会】

・オケラ (キク科)
開花が確認されています

気象の変化やキアシドクガの大発生などの特異な事象、さらにここ数年注目されている、カシノナガキイムシによるコナラの枯死で林内が明るくなるなど、自然現象の影響によるモニタリング対象種の増減が考えられます。

調査結果はホームページ上で公表しています。相模原市生物多様性ポータルサイト特集ページをご覧ください。

モニタリング調査にご協力いただける方を募集しています ▶

事務担当: 相模原市役所 水みどり環境課

相模原市 生物多様性

検索

